(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2012-105437
(P2012-105437A)
(43)公開日　平成24年5月31日(2012.5.31)

(51)Int.Cl.	F I	テーマコード（参考）
H02G 7/02 (2006.01)	H02G 7/02 301K	5G367

審査請求 未請求　請求項の数 1　ＯＬ　（全 5 頁）

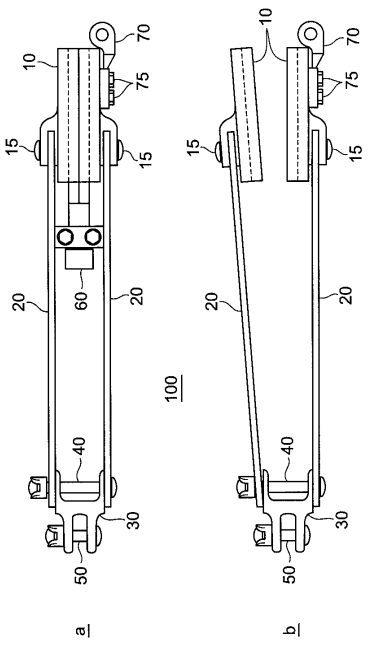
(21)出願番号　特願2010-251085 (P2010-251085)
(22)出願日　平成22年11月9日 (2010.11.9)

(71)出願人　000117010
旭電機株式会社
神奈川県横浜市青葉区あざみ野南２丁目１１番１６号
(74)代理人　100086368
弁理士　萩原　誠
(72)発明者　橋本　文由
神奈川県横浜市青葉区あざみ野南２－１１－１６　旭電機株式会社内
(72)発明者　西田　英司
神奈川県横浜市青葉区あざみ野南２－１１－１６　旭電機株式会社内
(72)発明者　井上　充男
神奈川県横浜市青葉区あざみ野南２－１１－１６　旭電機株式会社内

Ｆターム(参考)　5G367 ED01　EF01

(54)【発明の名称】楔型引留クランプ

(57)【要約】
【課題】架空送電線を鉄塔へ牽引する電線架設作業が容易に行える楔型引留クランプを提供する。
【解決手段】架空送電線を鉄塔へ牽引するための楔型引留クランプであって、電線の緊線作業時に電線を抱持するクランプ本体１０と、クランプ本体１０とこれに抱持された電線との上下間隙に圧入されて電線を固定する一対の楔６０と、クランプ本体１０の両側部に各々一端が回転自在に支持された一対の連結板２０と、一対の連結板２０の他端に連結されるクレビスリンク３０と、クランプ本体１０の両側部の一方の側部に取付けられた緊線リンク７０とを有し、クランプ本体１０は、両側部に分割される２分割構造より成る。
【選択図】　図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
架空送電線を鉄塔へ牽引するための楔型引留クランプであって、
前記電線の緊線作業時に前記電線を抱持するクランプ本体と、
前記クランプ本体とこれに抱持された前記電線との上下間隙に圧入されて前記電線を固定する一対の楔と、
前記クランプ本体の両側部に各々一端が回転自在に支持された一対の連結板と、
前記一対の連結板の他端に連結されるクレビスリンクと、
前記クランプ本体の両側部の一方の側部に取付けられた緊線リンクとを有し、
前記クランプ本体は、前記両側部に分割される２分割構造より成ることを特徴とする楔型引留クランプ。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、架空送電線を鉄塔へ牽引するための楔型引留クランプに係り、詳しくは、電線架設作業が容易に行える楔型引留クランプに関する。
【背景技術】
【０００２】
図３は、従来の楔型引留クランプ（２枚楔、ＭＢＴ）の構成図である。図３において、従来の楔型引留クランプ２００は、電線の緊線作業時に電線を抱持させるクランプ本体１１と、クランプ本体１１とこれに抱持された電線９０（図２ｃ参照）との上下間隙に圧入されて電線を固定する一対の楔６０と、クランプ本体１１の両側部に各々一端が回転自在部１５で支持された一対の連結板２０と、一対の連結板２０の他端に係止ピン４０により連結されるクレビスリンク３０と、クランプ本体１１の両側部の一方の側部に固定ボルト７５により取付けられた緊線リンク７０とを具備している。
【０００３】
ところで、電線９０を楔型引留クランプ２００により把持し、碍子連を介して鉄塔へ架設する場合、クランプ本体１１は、電線９０を把持した楔６０と嵌合する前に、電線９０を抱持する必要がある。このため、係止ピン４０のナットが緩められ、図面上側の連結板２０が係止ピン４０のボルトからはずされる。これによりクランプ本体１１は、ヒンジ部１２を軸に両側に開放されて電線９０を抱持し、再び連結板２０が係止ピン４０により固定された後、楔６０と嵌合される。このように、クランプ本体１１は電線９０を抱持するために、一度係止ピン４０から連結板２０が外され、電線９０を抱持した後再び連結板２０を固定する必要があり、電線９０の架設施工工程が複雑となり、作業性に問題があった。
【０００４】
特許文献１には、クランプ本体の両側に設けられた一対のストラップに着脱自在に取付けられるブロックと、駆動軸の軸心方向が電線を把持したくさび体の軸心方向と一致するようにブロックにも受けられた油圧シリンダと、一端が圧力シリンダの駆動軸の先端部に設けられ、他端が電線を把持したくさび体に当接し、かつその電線が挿入される溝条を有する圧力部とからなる、旨の記載がある。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】特開平６－１８９４３３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
本発明は、このような問題を解決するためになされたものであり、その目的は、架空送電線を鉄塔へ牽引する電線架設作業が容易に行える楔型引留クランプを提供する。

【課題を解決するための手段】
【０００７】
本発明の楔型引留クランプは、架空送電線を鉄塔へ牽引するための楔型引留クランプであって、電線の緊線作業時に電線を抱持するクランプ本体と、クランプ本体とこれに抱持された電線との上下間隙に圧入されて電線を固定する一対の楔と、クランプ本体の両側部に各々一端が回転自在に支持された一対の連結板と、一対の連結板の他端に連結されるクレビスリンクと、クランプ本体の両側部の一方の側部に取付けられた緊線リンクとを有し、クランプ本体は、両側部に分割される２分割構造より成ることを特徴とする。
【発明の効果】
【０００８】
本発明によれば、架空送電線を鉄塔へ牽引する電線架設作業が容易に行える楔型引留クランプを提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【０００９】
【図１】本発明による楔型引留クランプの構成図。
【図２】本発明による楔型引留クランプの施工図。
【図３】従来の楔型引留クランプの構成図。
【発明を実施するための形態】
【実施例】
【００１０】
本発明の実施の形態について、図を用いて説明する。図１は、本発明の楔型引留クランプの構造図である。図１において、楔型引留クランプ１００のクランプ本体１０が両側部に分割される２分割構造より成るところが図３のクランプ本体１１とは異なり、その他は同じであるため、説明は省略する。
【００１１】
図１ａは、クランプ本体１０が、電線９０を把持した２枚楔６０と嵌合するに十分なだけ、係止ピン４０のボルトとナットが締め付けられている状態を示している。図１ｂにおいて、電線９０を抱持するため、係止ピン４０のナットが緩められ、図面上側の連結板２０が、係止ピン４０のボルトの緩み量に応じて上方向に持ち上げられ、クランプ本体１０が、電線９０を抱持するに十分なだけ開放された状態を示している。
【００１２】
図２は、本発明による楔型引留クランプの取付け工程を示す施工図である。図２ａにおいて、楔型引留クランプ１００は、クレビスリンク３０とコッタピン５０により、鉄塔に取付けられた碍子連（図示せず）に連結されている。電線９０は、緊線工具８０の滑車を具備する電線把持具により把持され、一端が緊線リンク７０に接続されたワイヤが、当該滑車を経由して、電線９０を楔型引留クランプ１００方向に所定の位置まで引き寄せる。
【００１３】
図２ｂにおいて、電線９０が所定の位置まで楔型引留クランプ１００方向に引き寄せられると、係止ピン４０のナットが緩められ、図面上側の連結板２０が、係止ピン４０のボルトの緩み量に応じて上方向に持ち上げられ、２枚楔６０が取り去られ、クランプ本体１０は、電線９０を抱持するに十分なだけ開放され、電線９０はクランプ本体１０の抱持位置にセットされる。
【００１４】
図２ｃにおいて、２枚楔６０は電線９０の所定の位置を把持し、クランプ本体１０は２枚楔６０と嵌合するに十分なだけ、係止ピン４０のボルトとナットにより締め付けられる。つぎに２枚楔６０がクランプ本体１０の所定の位置に嵌合するまで、一端が緊線リンクに接続されたワイヤが緩められて電線９０の架設が終了する。
【００１５】
以上説明したように本発明によれば、係止ピン４０のナットを緩めるだけで、連結板２０を上方向に持ち上げ、電線９０をクランプ本体１０の抱持位置に容易にセットできるた

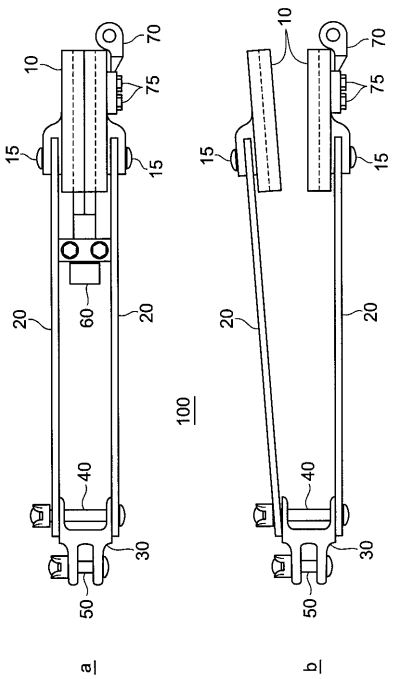
め、従来のように係止ピン４０のナットと連結板２０とをボルトから外す必要がなくなり、作業が単純化される。また、誤ってナットを落下させるというトラブルも解消される。このように、架空送電線を鉄塔へ牽引する電線架設作業が容易に行える作業性の良い楔型引留クランプを提供することができる。

【符号の説明】

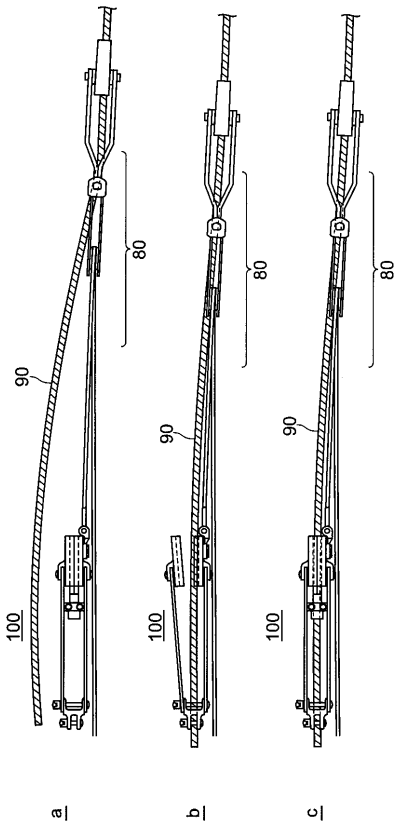
【００１６】

１０　クランプ本体
１１　クランプ本体
１２　ヒンジ部
１５　回転自在部
２０　連結板
３０　クレビスリンク
４０　係止ピン
５０　コッタピン
６０　２枚楔
７０　緊線リンク
７５　固定ボルト
８０　緊線工具
９０　電線
１００　本発明による楔型引留クランプ
２００　従来の楔型引留クランプ

【図１】



【図２】



【図３】

